

高松塚古墳壁画再現展示室竣工記念 関西大学博物館講演会

「高松塚古墳壁画を探る」

高松塚古墳壁画再現展示室



講師: ^{よねだ ふみたか} 米田 文孝 氏 (関西大学文学部教授)

^{きたむら たかし} 来村 多加史 氏 (奈良文化女子短期大学教授)

日時:平成20(2008)年7月5日(土)午後1時~

会場:関西大学千里山キャンパス第1学舎1号館 千里ホールA

定員:200名(無料・先着順)

申込方法 氏名・住所・電話番号を明記のうえ、往復ハガキまたは E-mail にてお申込みください。6月20日(金)必着。先着順で定員に達し次第、締め切らせていただきます。

申込受付 **関西大学博物館** 関西大学千里山キャンパス 簡文館内

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL : 06-6368-1171

E-mail : hakubutsukan@jm.kansai-u.ac.jp

URL : <http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/museum.htm>

高松塚古墳壁画再現展示室竣工記念講演会「高松塚古墳壁画を探る」

開催にあたって

「世紀の大発見」といわれる高松塚古墳（7世紀末～8世紀初の円墳。高さ約5^ト、直径約18^ト）の発掘調査は、昭和47年3月、奈良県明日香村を事業主として、奈良県橿原考古学研究所によって行われました。当時、所長であった末永雅雄関西大学名誉教授（昭和63年度文化勲章受章者）の指導のもと、網干善教助教授（当時、関西大学名誉教授）の関西大学の学徒を率いた発掘調査は、3月21日、日本では初めての、しかも極彩色の壁画を検出しました。

その後、石室内で発生した大量のカビにより、壁画をそこない、もはや検出当初のあざやかな色彩が失われているのが現状です。発掘調査に深く関わった本学は、このすこぶる貴重な文化遺産を後世に伝える責務の一翼を担っているところから、研究者はもとより、学生の研究と教育の進展に資するために、検出直後に撮影された写真をもとに、美術陶板による石室の再現展示室を設置いたしました。

このたび、高松塚古墳壁画再現展示室の竣工を記念して講演会を開催いたします。多くの方々のご参加をお待ちしています。

《講師プロフィール》

米田 文孝（よねだ ふみたか）

1987年、関西大学大学院博士課程修了。文学部入学以来、網干善教教授の指導のもと考古学研究室に所属し、明日香村での終末期古墳の調査研究に従事。89年から、日・印共同学術調査団調査研究員として、インドに所在する祇園精舎・舎衛城遺跡の発掘調査に参加。近年では、エジプト古王国時代の壁画墓の保存修復事業にも参画。現在、関西大学文学部教授。



高松塚古墳壁画再現展示室内部

来村多加史（きたむら たかし）

1958年生まれ。関西大学大学院博士課程修了。網干善教教授の指導のもと考古学研究室に所属し、キトラ古墳の測量調査を担当。85年から88年まで北京大学考古系に留学。現在、奈良文化女子短期大学教授。専攻は、中国考古学ならびに中国軍事史。主な著書に、『唐代皇帝陵の研究』（学生社）『キトラ古墳は語る』（NHK出版生活人新書）『万里の長城 攻防三千年史』『風水と天皇陵』（講談社現代新書）『高松塚とキトラ』（講談社）。

博物館小展示会「高松塚古墳壁画の発見」

会期：2008年6月23日（月）～7月28日（月）
（月曜～金曜日開館、7月5日（土）は特別開館）

時間：10時～16時

会場：博物館第2展示室

展示物：高松塚古墳発掘風景、中に入れる高松塚石室、
壁画パネル、高句麗 江西大墓四神図パネルなど

